



東北大学グローバルCOE

Network Medicine

創生拠点

NM高等教育セミナー

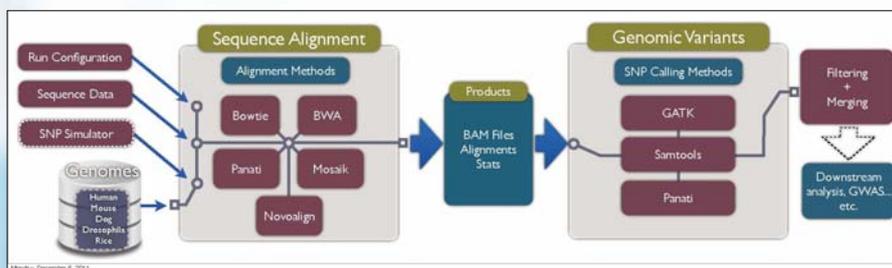
貫和 敏博 博士

(みやぎ県南中核病院・顧問／東北大学・名誉教授)

「Buildable! Computational Medicine—
mini-sabbaticalで垣間見た米国の臨床に
おけるbioinformatics展開」

2012年3月30日(金) 17時-18時30分
医学部5号館201号室

酵素学から始まった40年の学究生活には2度の大波があった。一つは70年代からの molecular biology、次いで今世紀に入ってからbioinformaticsである。幸い第一波は留学中の米国で身につけ、帰国後後進を指導できた。しかし大津波のような第二波は、日本にいて見晴らしも効かない。30年前の留学時の師、Crystal教授(Cornell大学)は現在70歳を越え、8年前からこのsystemを構築している。その厚意で、早期退職し、5週のmini-sabbaticalでNY(Genetic Medicine)、Ithaca(Computational Biology)、Qatar(Genome Seq)と連携して広がる彼のsystemの実際を垣間見た。また近年NCBI/GENEに集積するdataをdry labとして自分で確認できる解析ソフトPartek使用の訓練を受けた。推計学的に有意な数十から数百の遺伝子群の背景をどう考え、どう核心に接近できるのか。米国といえどもcomputational medicineは立ち上げ中で、人材が豊富なわけではない。議論した一人の教授はこのsystemはbuildableであると励ます。東北大学にMedical Mega Bank構想が立ち上がる中、Cornell大学での経験を報告する。



左図) 自分が学ぶつものBioinformaticsはこのpipelineのdownstreamと示され、全体像への関心が沸いた。

本セミナーは医学履修課程特別セミナー等を兼ねています。受講学生は履修簿を持参し、セミナー修了後にサインを受けること。聴講は自由大歓迎です。学部生の皆さんもぜひどうぞ。

拠点リーダー 岡 芳知 / 世話人 中山 啓子(細胞増殖制御分野)
問い合わせ先: 内線8227